

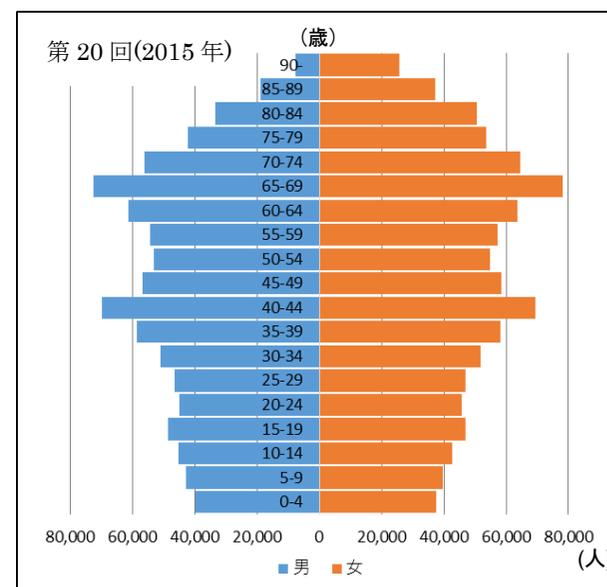
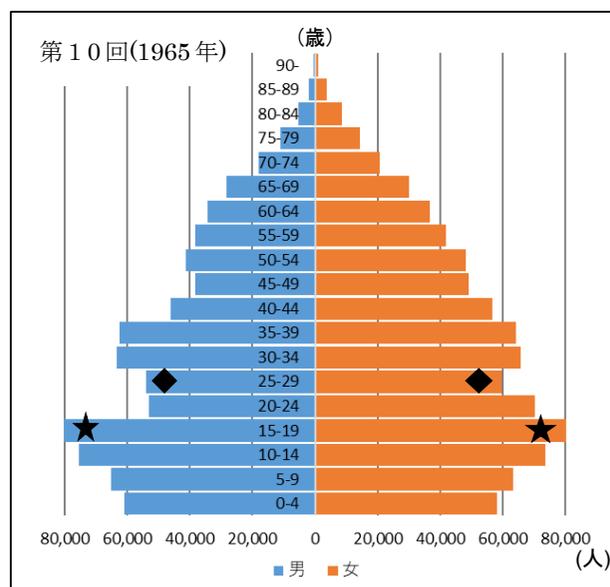
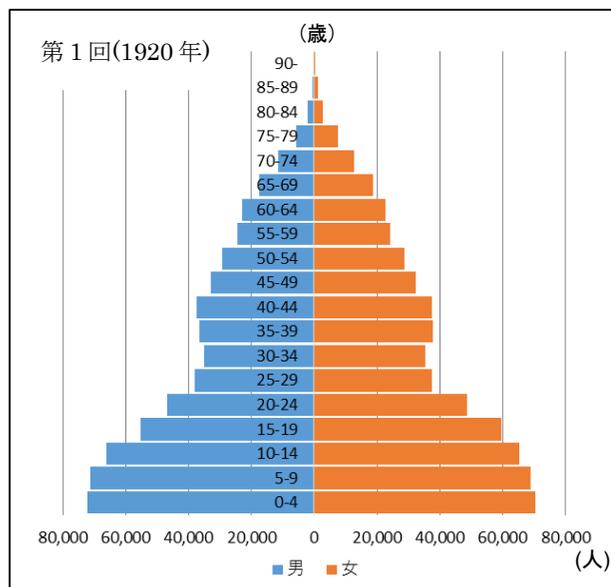
第2回 人口ピラミッドはどんな形？～岡山県年齢別人口の推移～

岡山県の人口は、1920年に実施された第1回調査では1,217,698人で、2015年の前回調査（1,921,525人）の約3分の2でした。100年間で1.5倍に増えた人口ですが、年齢別ではどのように変遷してきたのでしょうか？

下のグラフは約50年ごとにみた、岡山県の年齢別人口の推移を表した人口ピラミッドです。

それでは**クイズ!**

これらの人口ピラミッドはその形からそれぞれ〇〇型と呼ばれますが、それは何でしょうか？



なんだかあの山の形に似ているなあ…??

寺院にあるアシかも??

こういう形の入れものありそう!



©岡山県「いぬっち」



©岡山県「きじっち」



©岡山県「さるっち」

☆答え☆

【第1回調査(1920年)の人口ピラミッド】

富士山型

多産多死型ともいい、発展途上国に多く見られます。日本も戦前まではこの形でした。1947年に行われた第6回国勢調査まで最も人口の多い年齢は、毎回変わらず「0歳」であり、戦後のベビーブームが始まるまで、富士山の裾野は広がったのです。

【第10回調査(1965年)の人口ピラミッド】

釣い鐘型

少産少死型ともいい、先進国で人口が安定した状態に多く見られます。この人口ピラミッドにある大きな隆起(★)が、いわゆる団塊の世代と呼ばれている、第1次ベビーブーム(1947~1949)の時に産まれた人々です。◆の凹みは第2次世界大戦終戦後の出生減が原因です。

【第20回調査(2015年)の人口ピラミッド】

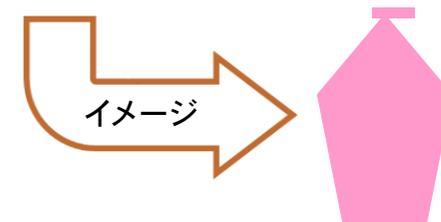
つぼ型

出生率は100年で半減しました。出生率がさらに下がり続け、死亡率を上回ることで人口が減少していきます。

人口ピラミッドの推移から、**少子高齢化が進んでいることがよく分かります。**

ちなみに・・・

2050年には年齢間の凹凸はほとんどなくなり、なめらかに下すぼまりの形をしている、「タワマン?型」になると考えられています。また、100歳以上の女性の多さが目立ちます。



次回は**少子高齢化**の原因について取り上げたいと思います!